

感染症発生動向調査

Infectious Diseases Weekly Report

2025年第33週(8月11~17日)

(国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所)

●全数報告の感染症(1~5類感染症)

(今週の報告数/累積。累積は2025年第1週から)

疾患名	報告数	累積
[1類]		
(報告なし)		
[2類]		
結核	179	8735
[3類]		
コレラ		3
細菌性赤痢	1	32
腸管出血性大腸菌感染症	133	2064
腸チフス	1	18
パラチフス		4
[4類]		
E型肝炎	6	380
A型肝炎	3	85
エキノкокクス症		22
エムボックス ¹⁾		3
オウム病		8
回帰熱		5
コクシジオイデス症	1	6
重症熱性血小板減少症候群	5	143
ダニ媒介脳炎		2
チクングニア熱	2	15
つつが虫病	1	102
デング熱	5	94
日本紅斑熱	22	354
ブルセラ症		2
ポツリヌス症		1
マラリア	1	16
ライム病	1	12
類鼻疽		1
レジオネラ症	50	1412
レプトスピラ症	5	12
[5類]		
アメーバ赤痢	6	289
ウイルス性肝炎 ²⁾	2	151
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ³⁾	16	820
急性弛緩性麻痺 ⁴⁾		20
急性脳炎 ⁵⁾	4	352
クリプトスポリジウム症		16
クロイツフェルト・ヤコブ病	2	110
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	14	948
後天性免疫不全症候群	6	526
ジアルジア症	1	25
侵襲性インフルエンザ菌感染症	6	470
侵襲性髄膜炎菌感染症	3	62
侵襲性肺炎球菌感染症	19	2521
水痘(入院例に限る)	15	440
梅毒	118	8734
播種性クリプトкокクス症	2	104
破傷風	3	56
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	59
百日咳	1506	66655
風しん		8
麻疹	5	209
薬剤耐性アシネトバクター感染症	1	5

1) 2023年5月26日よりサル痘から感染症法上の名称が変更。2) E型肝炎およびA型肝炎を除く。3) 2023年5月26日よりカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症から感染症法上の名称が変更。4) 急性灰白髄炎を除く。5) ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

●定点把握の5類感染症

(「定点当たり」は報告数/定点医療機関数)

疾患名	報告数	定点当たり
インフルエンザ ⁶⁾	980	0.28
新型コロナウイルス感染症	22288	6.30
RSウイルス感染症	1358	0.63
咽頭結膜熱	534	0.25
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2093	0.97
感染性胃腸炎	5296	2.46
水痘	430	0.20
手足口病	752	0.35
伝染性紅斑	2495	1.16
突発性発しん	496	0.23
ヘルパンギーナ	1645	0.77
流行性耳下腺炎	83	0.04
急性出血性結膜炎	11	0.02
流行性角結膜炎	420	0.67
細菌性髄膜炎 ⁷⁾	5	0.01
無菌性髄膜炎	30	0.06
マイコプラズマ肺炎	558	1.16
感染性胃腸炎(ロタウイルス) ⁸⁾	2	0.00
急性呼吸器感染症	120683	34.14
インフルエンザ(入院患者)	52	—
新型コロナウイルス感染症(入院患者)	1904	—

6) 鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く。7) 髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。8) 病原体がロタウイルスであるものに限る。

●定点把握の対象となる5類感染症

(前週からの定点当たりの増減と多い地域)

疾患名	増減	地域
インフルエンザ	↓	沖縄、高知、和歌山
新型コロナウイルス感染症	↑	宮崎、鹿児島、埼玉
急性呼吸器感染症	↓	埼玉、茨城、栃木
RSウイルス感染症	↓	山形、栃木、宮城
咽頭結膜熱	↓	愛媛、大分、岐阜
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	愛媛、埼玉、茨城
感染性胃腸炎	↓	島根、福井、岐阜
水痘	↓	埼玉、島根、岡山、鹿児島
手足口病	↓	北海道、奈良、高知
伝染性紅斑	↓	山形、大分、和歌山
ヘルパンギーナ	↓	石川、愛媛、福井
流行性耳下腺炎	↓	滋賀、香川、埼玉
マイコプラズマ肺炎	↓	秋田、群馬、鳥取

◆狂犬病(東ティモール)

2025年5月、東ティモール政府は世界保健機関(WHO)に、狂犬病による死亡例を報告した。2025年5~6月に4例の狂犬病による死亡を確認している。2024年3月以降、動物の狂犬病症例(主にイヌ)が106例、イヌによる咬傷等の事例が1400例以上、死亡例が6例報告されている。